

ライブラリーコンサート in 日吉

－図書館がコンサートホールになった日－

さけみ かよ
酒見 佳世

(メディアセンター本部)

1 はじめに

図書館の中に本物の音楽が流れたら、いったいどんな風に聞こえるのだろうか？ そんな思いから、実際にライブラリーコンサートが実現するまで、ちょうど半年。本稿では、コンサートを企画するきっかけから実施までの経緯を紹介しようと思う。

この始まりは、2015年12月に日吉図書館のラウンジを会場として行われた湘南藤沢キャンパスの学生による「芝浜」の公演だった。慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会（以下「HAPP」とする）の秋の学生公募企画の一つで、筆者と市古元日吉メディアセンター事務長が担当委員として関わっていた。彼らの公演が始まる直前、とても小さな音でクレモンティーヌの歌声がラウンジに流れていたのだが、これがなんとも心地よく、この企画の最初のきっかけとなった。

2 企画をたてる

「図書館でコンサート」と言うと、エッ？と驚かれることが多いが、「読書と音楽」あるいは「勉強と音楽」の組み合わせで考えてみると、それほど違和感はない。実際、図書館の中でイヤフォンをして勉強している学生はとても多い。学内に音楽サークルは山のように存在しており、日吉メディアセンターにも元音楽サークル出身の職員が何人もいた。

コンサート実施のための資金はHAPPの春の新入生歓迎行事に応募すれば工面できる。きっかけの芝浜公演は12月だったが、企画書の提出時期は1月中旬なので、すぐに書けば間に合う。せっかくHAPPの企画にして予算がつくのだから、演奏者はプロフェッショナルに頼みたい。問題は実際に図書館で演奏してくれる方がいるかどうかという点だったが、これも市古事務長の尽力により、あっという間に3人の候補が見つかった。日吉図書館の閉館の際に流れる音楽を演奏してくださっているヴァイオリ

ニストの本庄篤子さん（元日吉メディアセンター所長、伊藤行雄名誉教授の奥様）、2016年4月から図書館のAVホールを使用して開講されることになっていたGIC（Global Interdisciplinary Courses）センターの「音楽I」の授業を担当されるジャズギタリストの井上智さん、そしてGIC関連で図書館に下見に来ていたKMD研究科研究員でヴァイオリニストの水寿美江さんである。どの方も、これまでに図書館で演奏した経験はないとのことだったが、快く引き受けてくださったのは、本当に幸いなことであった。

新入生歓迎企画ということで、時期は5月、時間は平日の午後、学生の入退館で騒がしくなる休み時間は外し、授業時間中に設定した。会場はラウンジとAVホール。ラウンジは一般にも公開するが、AVホールは学内限定。演奏者はアマチュアではなくプロとし、本格的な生の音楽を提供する。3日間それぞれに、クラシック、ブルース、ジャズとジャンルも異なり、出演者は総勢7名、日によって異なる種類の音楽が楽しめる構成となった。1月中旬に企画の概要を提出した後、3月に全ての演奏者の詳細が決まったところでHAPPの新入生歓迎行事の一つとして正式に採択された。

3 当日までの作業

無事にHAPPの行事として採用されることにはなったが、前例のないことを実現するのは簡単ことではない。コンサートまでに準備しなければならないことは山のようにあった。春の日吉は新入生を迎える準備に追われ、情報リテラシーセミナーの最盛期でもある。ただでさえ余裕がないところに、コンサートを開催した経験がないという不安が当日までの道のりをより険しく見せていた。準備の段階で特に心配したのは観客の数と、当日発生する音への利用者の反応であった。

コンサート実施にあたっての作業は以下の通り。

- ・HAPP企画書の作成・提出
- ・予算管理
- ・出演者との打ち合わせ・連絡
- ・各種申請書類の作成
- ・ポスター・チラシの作成と掲示
- ・広報活動（twitter, ホームページなど）
- ・当日の音について理解を求める掲示・館内放送
- ・当日プログラムの作成・印刷
- ・アンケートの作成・実施・集計
- ・電子ピアノの手配
- ・当日の会場設営と運営
- ・記録（ビデオ, 写真）
- ・報告書の作成

4 コンサート当日

そうして迎えた当日、3日間はあるという間に過ぎていった。特に初日の図書館1階全体に響き渡る美しいヴァイオリンの音と館内の静けさは忘れられない。(図1) 日吉図書館は楨文彦氏による建築であるが、会場となったラウンジは吹き抜けで天井が高く、音がよく響き、まるでここで音楽が鳴るのを待っていたかのような感覚。狙い通り、通りがかりに聞いてくれた学生も「これを機にclassicに興味を持ち始めると思います。」という感想を残してくれている。一方、AVホールでのコンサートはラウンジのような音楽との偶然の出会いには望めない代わりに、演奏者に音量を気にすることなく、思い切り演奏していただくことができ、その分ラウンジとは異なる盛り上がりを見せた。終わってみれば心配していた音に対する苦情もなく、アンケート¹⁾によれば大変な好評のうちに、「図書館がコンサートホールになる3日間」は幕を閉じた。



図1 2016年ラウンジでのコンサート演奏風景



図2 2017年AVホールでのコンサート演奏風景

2016年の好評価をもとに、2017年5月にも再びコンサートを開催することができた。2017年は7名の出演者数は変えず、「弦楽四重奏」と「ジャズトリオ」の2日間の設定とした。2016年よりも日数は少なかつたにも関わらず、観客数は増加し、新入生から地域の方々まで、より多くの方に喜んでいただくことができた。(図2)

5 終わりに

図書館は学生が日常生活を送る普段着の場所である。そこで行われるコンサートという非日常がどのような形で受け止められるのか不安もあった。しかし、図書館が本だけではない、席だけではない、刺激的な場所にもなりうることを、多少なりとも利用者に伝えることができたとすれば、これほど嬉しいことはない。可能性は無限大、とは言い過ぎかもしれないが、コンサートの実現を通じて、図書館という場所にはなんでも受け止める懐の深さがあると改めて感じている。

図書館がコンサートホールになった数日間、その時にだけ流れた本物の音楽はとても美しく、非日常の音がした。今後もライブラリーコンサートをはじめとして、様々な企画をこの場所で実現できればと思う。

最後に、この企画に賛同し素晴らしい音を聞かせてくださった演奏者の皆様、コンサートを成功させるために様々なアイデアを出し、協力してくれた日吉メディアセンターのスタッフに心より感謝申し上げます。

注

1) アンケートの結果は以下のURLで公開している。

2016年：http://www.hc.lib.keio.ac.jp/headquarter/event_archives.html

2017年：<http://www.hc.lib.keio.ac.jp/headquarter/exhibition.html>